

「阿蘇ふるさとづくり自然塾②」事業報告書

企画指導専門職 山下 正晃

1 事業の概要

- (1) 趣 旨 子どもたちに共同生活の機会を与え、調理や掃除、洗濯など日常生活体験を自分たちの力でに行わせることによって、子どもたちの自主性や社会性、他人と協力して生きていく力を育てる。また、集団での規則正しい生活を通して、基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、自学力の向上を図る。
- (2) 期 日 平成30年2月13日(火)～2月17日(土) 【4泊5日】
- (3) 活動場所 国立阿蘇青少年交流の家
- (4) 参加者 阿蘇小学校4～6年生 30名(男子12名、女子18名)(募集人数30名)
- (5) 担当職員 山下正晃(企画指導専門職) 三枝ひとみ(企画指導専門職)
志賀泰成(事業支援室主任) 萱野太一(事業推進係員)
- (6) 内 容 【1日目】開会式、アイスブレイク、個人や班のめあて設定、学習、朝食準備
【2日目】朝食づくり、クラフト(押し花コースター)、ニュースポーツ(キンボール)
学習、朝食準備
【3日目】朝食づくり、洗濯、学習、朝食準備
【4日目】朝食づくり、学習、天体観測、朝食準備
【5日目】野外調理(ピザづくり)、閉会式

2 成果と課題

(1) 成 果

- 「普段お母さんに教えてもらいながらしか料理はできなかったけれど、自分でいくつかできるようになったので、家でもチャレンジしたいです。」「いつも家の人に言われてから行動していたけれど、時間を見ながら行動できるようになったと思います。」などの参加者の感想があった。生活体験の場を多く設定することで、参加者は達成感や家族の大切さや大変さを感じ、自分で考えて行動する姿が多く見られるようになった。
- 「朝食づくりや、レクリエーションをしながらみんなと仲良くなりました。」「みんなで協力すればいろいろなことができることが分かりました。」などの感想も聞かれた。異学年による班での活動や学習により、普段関わりが少ない友達との交流が深まり、協働活動の喜びや重要性を感じていることがうかがえた。
- 学習時間を確保し、宿題が終わった児童用に自学プリントを準備したことで、集中して学習に取り組むとともに、自ら進んで学ぶ態度が見られた。また、活動班ごとに席を近くしながら学習することで、学年を越えて教えあう姿が見られた。
- 担当者が参加者ノートに書いた1日のふりかえりに目を通しコメントを残すことで、体調や心配事などを把握でき、個別に対応することができた。

(2) 課 題

- 開催時期がインフルエンザ流行時期と重なっていたため、事業の開催可否に関する問い合わせが多数あった。近隣小学校のインフルエンザの罹患状況を把握し、開催可否の基準を事前に各家庭に伝える必要がある。
- 学校からの下校時刻が遅くなる日には活動があわただしくなることがあった。参加者がさらに充実した活動を行っていくためにも、ゆとりを持ったプログラムの計画が必要である。

3 事業の様子



開会式



班のめあて決め



朝食準備



クラフト（押し花コースター）



ニュースポーツ（キンボール）



洗濯物干し



天体観測



野外調理